はくぶつかんの部屋 25

博物館の資料はどこから来るの？

博物館に収蔵・展示されている資料は、どこから来るのかご存知ですか。宜野湾市立博物館の場合、ほとんどが市民の皆さまのお家からです。便利な道具や新しい製品に取って代わられて、使われなくなった物を、資料として譲っていただいています。

多くの場合は、「こんな道具があるけど、博物館で必要ですか？」といったご連絡をいただくことがきっかけですが、古い物や珍しい物ならば、何でも集めるのではありません。当館は、宜野湾市の文化の保存と活用を目的とするので、①宜野湾市で暮らした人びとが使っていた、②当館に所蔵されていない、もしくは数が少ない、③当館が所蔵している資料より状態が良い（壊れていない）といったことを基準としています。

博物館にやって来た資料は、大きさや状態を職員によって確認され、収蔵品台帳に記録されます。台帳には、持主だった方からの聞き取り情報も記録されます。こうして、道具を使った人びとの思い出や暮らしぶりも、資料と一緒に生き続けるのです。

また資料を守るために、シロアリなどの害虫やカビを除く「燻蒸（くんじょう）」という処理を行います。「燻蒸」は様々な方法があります。殺虫剤を使う場合、高温または低温の密閉空間に資料を入れる場合、酸素や二酸化炭素の濃度を変えた密閉空間に資料を入れる場合などがあり、資料の素材や状態を見て、適した方法を選びます。

このようにして当館にやって来た資料は、どれも全て市の文化を語る、市民共有の宝物です。ぜひ宝物に会いに、博物館にお越しください。今年度の博物館の活動年間予定については、当館ホームページをご覧ください。

なお、譲っていただける物をお持ちの方は、当館までご一報ください。

平成26年度寄贈資料の一部（国体関係資料）

【お問合せ】市立博物館 ☎870−9317
入館料無料となっておりますので、お気軽にご来館下さい。

茶ぐぁーゆんたく 132

市昇格へ

1962（昭和37）年、人口が3万人を突破して都市化しつつある宜野湾村は、市昇格の準備を進めていました。その中で新しい市名を公募したところ、全琉各地から応募が寄せられました。

集った名称は、天満、吉野、大山、普天満、普天間、宜天満、宜野湾、宜普ノ宮、布天真、松山、大野、三原、天野、中野宮、松宮、宮松などでした。

各市名には、ふさわしいと思われる理由も書き添えられ、普天間宮を意識したものや、中部に生れる新しい都市をイメージしたもの、当時検討されていた中城村、北中城村との三村合併を前提にしたものなどがありました。

1958(昭和33)年当時の宜野湾村役場

※写真は、写真集「ぎのわん」より

特に「普天間」は、経済・文化的にも宜野湾の中心地であるとの理由から、地元の陳情や同名応募数も多く、有力候補とされました。

同年4月4日、村は臨時議会に市昇格理由書を提案して、審議された後に可決されました。ただ、市昇格時の名称変更については、議会でも開会当初から、学識経験者などの参考意見も聞きながら討議されましたが、なかなか意見がまとまりませんでした。

そして「普天間」と、もう一つの候補である「吉野」で意見が激しく対立し、どちらも議会の三分の二の賛同が得られず、これまでの「宜野湾」の名称となり、4月6日に琉球政府へ申請書を提出しました。

その後、6月の立法院本会議にて満場一致で決議され、7月1日付で市に昇格しました。1908（明治41）年より約54年間続いた宜野湾村は、新しく「宜野湾市」へと生まれ変わったのです。

1962(昭和37)年
7月市昇格

『宜野湾市史』への問合せ
市立博物館 ☎870−9317